

製品紹介

水産業の未来を担う最先端の 漁業練習船 “耕洋丸”

State of the Art Fisheries Training Vessel "KOYO MARU" as a New Leader of Future Fisheries Industry



営業窓口 船舶・海洋事業本部 船舶・海洋営業第二部
☎ (03) 6716-3063

本船は、(独)水産大学校の漁業練習船で、海洋や水産に関する教育・調査・研究を行うための中核施設として建造され、平成19年6月29日に竣工した。

本船は、水産業の未来を担う創造性豊かな人材を育成するための洋上教育施設として、また、国内外の共同調査等において主導的な役割を果たすための洋上研究施設として、水産業発展への貢献が期待されている。

1. 推進プラント

ディーゼル／電気の複合推進プラントを有しており、目的に合わせてディーゼル推進モードと電気推進モードを使い分けることが可能となっている。

通常航海時は、主クラッチを介してプロペラ軸とディーゼル主機関を直結し航海速度14 ktで航行する(ディーゼル推進モード)。

一方、調査・観測時は、補助クラッチ及び減速機を介して補助推進電動機を駆動し8 kt以下で低速航行する(電気推進モード)。

表1 主要目

全長 (m)	87.59
幅 (m)	13.60
深さ (m)	8.80
総トン数 (t)	2352
定員	乗組員 42名 教員 7名 学生 60名
航海速度 (kt)	14.0
主機関	6L35MC×1基
最大出力 (kW)	3900kW×210min ⁻¹

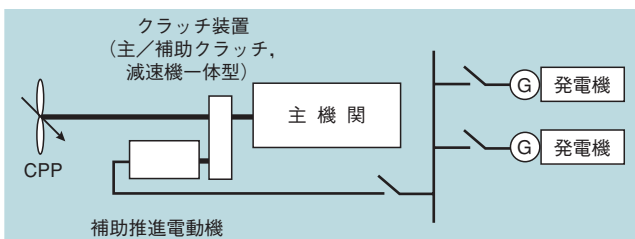


図1 推進プラント構成

2. 漁労設備

トロール漁業、まぐろ延縄漁業、たま縄漁業、いか釣漁業用の漁労設備を有している。トロール設備には、最新鋭のセルフトロール & ナビゲーションシステムを採用しており、自動船位保持装置、漁具動態監視システム、オートテンション型ワープウインチの連携により、目標魚群の行動に対応して漁具が適切な深度と方向になるよう船速、ワープ(曳綱)の長さ及び張力を制御することで、トロール操業の省力化・省人化・省エネ化を図っている。

3. 調査・研究設備

CTD(海中の塩分濃度・水温・水深の計測や採水を行う装置)やネット類などの海中投入作業を効率的に行えるよう、ウェット研究室に隣接して、Aフレームクレーン及び観測ウインチを舷側に配置している。

また、計量魚群探知機、超音波式多層流速計、超音波海底地形探査装置などの音響調査機器により、水産資源や海洋環境に関する調査・研究を総合的に行うことが可能となっている。

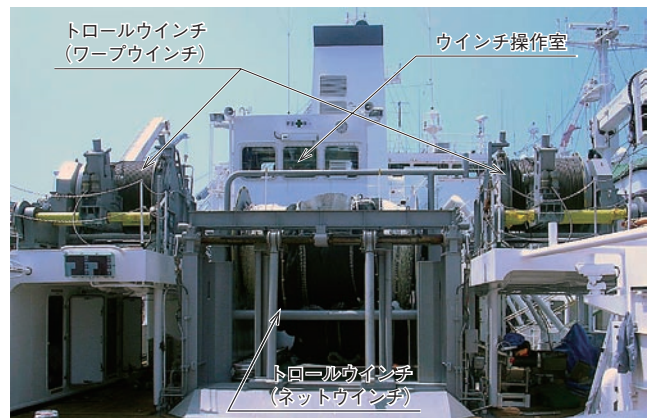


図2 トロールウインチ